

Asia Indicators

発表日: 2023年8月8日(火)

オーストラリア: PMI(23年7月)

～サービス業の業況感悪化により総合PMIは50を下回り縮小に転化、次月以降も縮小の可能性～

第一生命経済研究所 経済調査部
主任エコノミスト 阿原 健一郎(Tel: 050-5470-4868)

7月のオーストラリア総合PMIは48.2と節目の50を下回った。4月以降、拡大ペースが鈍化していたが、今月で縮小に転じた。各項目をみると、製造業PMIが49.6(6月48.2)と引き続き50を下回って推移したことに加え、サービス業PMIが47.9(6月50.3)と大きく悪化し、50を下回り縮小している。サービス業の縮小が総合PMIを下押しした形となった(図表1)。

オーストラリアの製造業は、グローバルな製造業の業況感が悪化するもとの、引き続き縮小した。もっとも、縮小ペースは前月から幾分鈍化している。製造業PMIについて構成項目を確認すると、新規受注指数、生産指数、原材料在庫指数が引き続き50を下回って推移しているものの、いずれも縮小ペースは鈍化した。サプライヤー納期指数は5か月ぶりに50を下回り、ヘッドラインの底上げに寄与した。雇用指数は引き続き50を上回り、拡大ペースが加速している(図表2)。

オーストラリアのサービス業は、既往の金融引き締めの効果もあり、拡大ペースが鈍化していたが、今月で縮小に転じた。いまだインフレ率が高水準にあることに加え、住宅ローン金利等の上昇により生活コストが増加しており、サービス業が縮小しているとみられる。サービス業PMIについて各項目を確認すると、拡大ペースは鈍化しつつも、新規受注指数、雇用指数、価格指数が引き続き50を上回り推移している一方、活動指数が大きく鈍化している(図表3)。

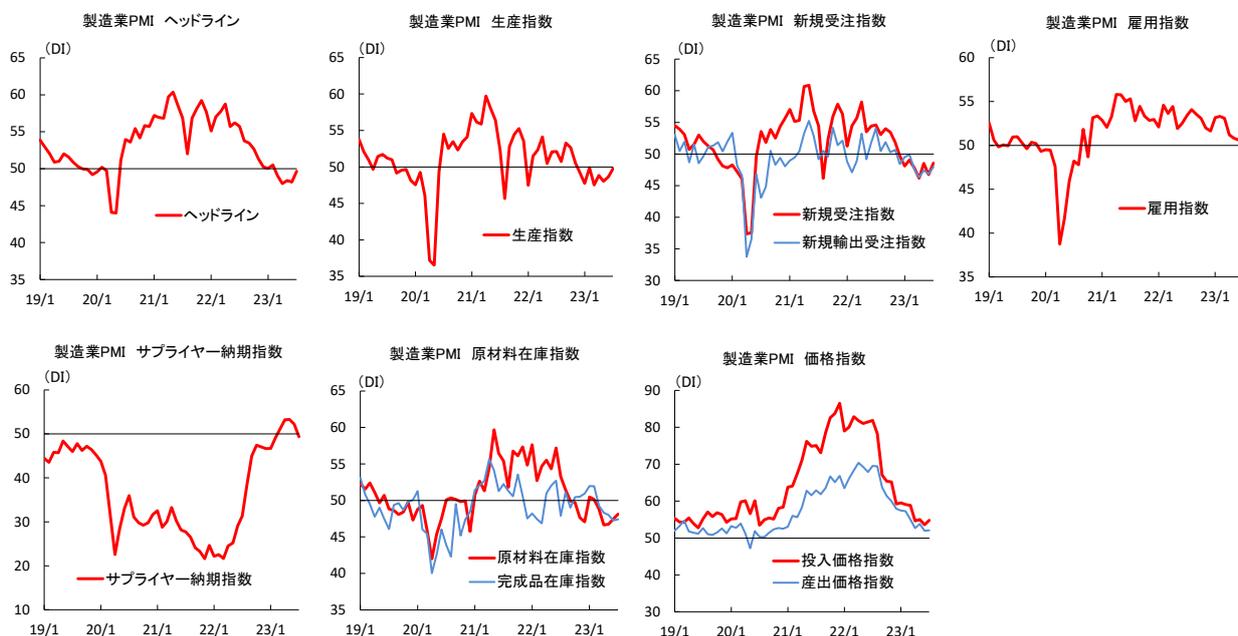
先行きは、製造業では、新規受注が引き続き縮小していることから、縮小傾向が続く可能性がある。前月からは縮小ペースが鈍化したものの、グローバルな業況感が引き続き縮小しているもとの、次月以降、業況感が改善に向かうのかは判然としない。今月の縮小ペースの鈍化をもって「製造業の市場は安定した」とみる向きもあるが、業況感が底を打ったのかどうかは、次月以降の数値次第だろう。サービス業は、次月以降も縮小傾向が続くと予想される。8月1日にRBAが2会合連続の政策金利の据え置きを決定(4.10%)しているが、インフレ率が高止まりするもとの生活コストの増加が家計を圧迫している状況に変わりはなく、業況感の改善は難しいだろう。

【図表1】オーストラリアのPMI

	四半期				月次			
	22/4Q	23/1Q	23/2Q	23/3Q	23/4月	23/5月	23/6月	23/7月
総合PMI	48.4	49.2	51.6	48.2	53.0	51.6	50.1	48.2
製造業PMI	51.4	49.9	48.2	49.6	48.0	48.4	48.2	49.6
サービス業PMI	48.1	49.3	52.0	47.9	53.7	52.1	50.3	47.9

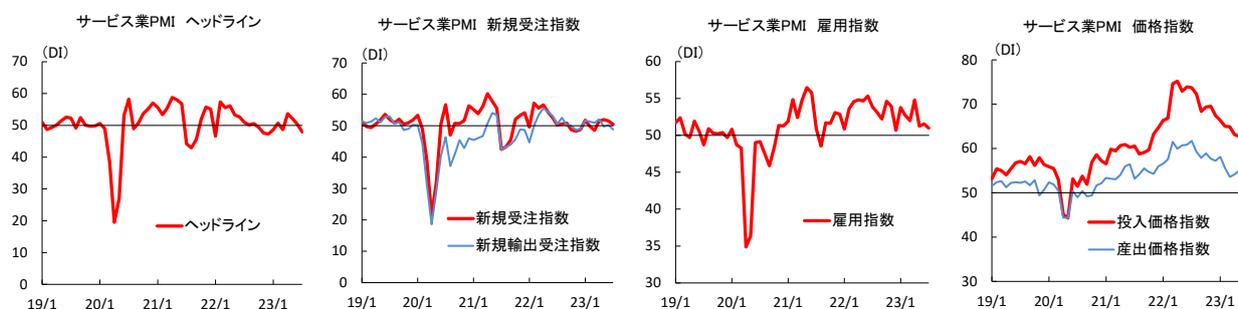
(出所) S&P Global

【図表2】製造業PMI



(注)直近はいずれも7月。
(出所)S&P Global

【図表3】サービス業PMI



(注)直近はいずれも7月。
(出所)S&P Global

本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見直しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命保険ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。